

平成29年3月30日

## 【平成29年度第1回（25回）セミナーのご案内】

日時 2017年6月17日（土）13：30～16：30

場所 日本点字図書館

テーマ 教科書点訳を支えるソフトと点字プリンタ

プログラム：

13：00 受付開始

13：30 開会挨拶

13：40 ①『点字編集システム』の今とこれから 校正機能BESX活用の実際  
テクノツール株式会社 大鐘俊也氏

14：15 ②『点字編集システム』と『図形点訳ソフト・エーデル』を繋ぐ  
B E S Eの機能と活用の可能性 日本点字図書館 和田勉氏

14：45 休憩

15：15 ③ここまで使えるフリーウェア点訳ソフト『T・エディタ』  
当会理事 鈴和代氏

15：30 ④点字プリンタ最新事情——もっと便利な点字・点図プリンタの実現を目指して  
株式会社ジェイ・ティー・アール 岡村原正氏

16：00 ⑤こんなソフトやハードがほしい（フリーディスカッション）

16：30 閉会

定員 90人

参加費 無料

お申し込み・問い合わせ

5月27日（土）までにメールかファックスで、下記までお申込みください。

その際、お名前、所属グループ、連絡先をご連絡ください。定員になりしだい締め切らせていただきます。

日本点字図書館 松本 e-mail: matsumotom@nittento.or.jp

TEL: 03-3209-0241（代表）/FAX: 03-3204-5641

## 【平成28年度第2回（24回）セミナーのご報告】

日時 平成28年11月19（土） 13:00～16:00

場所 日本特殊陶業市民会館 第1会議室

テーマ 今一度社会科の地図を考える！ 伝わる触地図 広がる世界

秋のひとつときを名古屋の市民会館において、今年度第2回目のセミナーを開催しました。ボランティアグループや関係施設、特別支援学校などから計75名の方が参加して、社会科の触地図についての研修を行いました。

講師には、日本福祉大学教授で盲学校用社会科点字教科書編集委員であった柏倉秀克先生をお招きし、特別支援学校用教科書における触地図製作の留意点をお話いただきました。

まず、地図作りのポイントを講義していただきました。その中で、「視覚障害児童・生徒向けに触地図を作る際、墨字の地図よりもかなりシンプルなレイアウトにしなければ実際に児童・生徒たちが触った時に読み取ることが難しいというお話がありました。例えば、複雑な大陸や島の地形を墨字と同じように点図にしても、児童生徒は読み取れないので、伝えたい部分を抜き出し、さらに拡大することもあります。また、墨字では、山や海などの地形、県庁所在地といった様々な情報を1枚の地図に盛り込むことができます。ときには、統計資料が書き込まれていることもあります。このような地図は情報を整理し、何枚かの地図に分割し点訳するという配慮が必要です。

また、視覚障害児童・生徒は、指導なしに自ら地図を読み取ることは困難であり、学年や発達段階に応じた教材を提供し、地図の学習指導を行うことが重要です。自力で地図を触って読み取れるようになるために、特別支援学校では細やかな読み取り方の指導が、行われています。

次に、用意して下さった地図のサンプルを参加者全員で見ながら、編集で工夫された点を教えてくださいました。

### （1）凡例の書き方

特別支援学校用社会科の点字教科書では、凡例と地図を必ず見開きにしてレイアウトしています（左ページに凡例を、右に地図を配置）。また、地図と合わせて統計資料を見るような場合、検索しやすいように資料を凡例と同じページにレイアウトしています。

### （2）枠線の活用

地図の範囲を明確にするために、地図の周りを枠で囲んでいます。地図内容と区別して、枠の外には緯度・経度などの情報を付記できるようになりました。

### （3）地図の描き方のポイント

墨字1枚の地図に書かれている情報が多い場合は、点図では内容別に何枚かの地図に分けます。入り組んだ列島の地図は、島と島の間を広くして（デフォルメすることもある）一つ一つの島の形を触って分かるように作ります。拡大して触地図を作るとき、縮尺に注意します。

教科書製作をしていて、どれくらい拡大すればいいのか、示すべきポイントとなる要素はどこから判断に迷うことがあると思います。最終的に、触読の専門家や教員などに相談することもあるでしょう。

地図を作る時のポイント、それは、その地図を使って何を学ぶかで盛込む情報や作り方が決まります。学校では、視覚障害生徒たちが自力で地図を触って理解できるようになるよう、その意図を教えることが大事。地図帳はそれを指導するための貴重なツールとなるのだという言葉で締めくくられました。

その後の質疑応答では、以下のような意見、情報が出されました。

・地図の裏点を触っても分かりにくいという人がいますが、固い板などの上に紙を置いて触るとしつかり浮き出ます。

・（点訳者から）凡例をなるべく地図に近いところに書くようにしています。

・地図に枠を付けるのはケースバイケースで、範囲を示す場合には有効ですが、必ずしも必要なものではないと思います。

・地図帳のデータは提供されていますか？

→点字教科書の触地図の原盤は手作りのためデータがありませんので提供できませんが、弱視者用に作られている地図データは今後公開する予定です。

・点図を描くためのソフトを教えてください。

→エーデルソフトを紹介しました。

・点図の作り方のマニュアルはありますか。

→エーデルソフトの操作マニュアルがウェブ上で公開されていたり、本会でも「教科書点訳のてびき」を発行していますので、それらを参考にしてください。

この他にも、会場の後方で展示されていた社会科の教科書や、地図のパズルの周りには常に参加者が列をなすなど、触地図への関心が高く、終始熱気に包まれたセミナーとなりました。

ご協力いただきました皆様、ありがとうございました。

## 【平成 28 年度第 3 回理事会記録】

日時 11月19日（土）11:00～11:30

場所 日本特殊陶業市民会館研修室

議題：

1. 第24回セミナーの進行と担当分担について確認した。
2. 次回のセミナーの日程を、2017年6月17日（土）、日本点字図書館で開催することを確認した。
3. 既存データを他グループで活用する際の参考になるよう、本会のホームページに製作教科書を掲載する際、点訳の配慮事項を備考欄に記載することになった。

## 【平成 28 年度第 4 回理事会記録】

日時 3月4日（土）13:30～17:00

場所 日本点字図書館多目的D

議題：

1. 平成29年度総会について

2017年6月17日（土）11時から、日本点字図書館において行う。

松本さんより、今年度の決算中間報告があった。

2. 平成29年度第1回セミナーについて

いくつかの提案があり、講師の都合等を確認して、前述の「ご案内」のように決定した。

3. その他

・「教科書点訳の手引き」の残部が約50部になった。内容の変更箇所を確認し、改版・増刷の際に反映させることになった。

・児童生徒の選択で進路変更があり、製作途中の点字教科書がキャンセルになることがある。その際の既に製作した費用の負担について、文部科学省に田中理事長から問い合わせてもらった。→ キャンセル料の件ですが、文科省の課長補佐から回答があった。途中まで仕上げていても本人に貸与されない限りは、文科省としては、それまでの点訳料は払うことができないとのことでした。

・徐々に視力が低下している児童生徒が、墨字の教科書と点字の教科書の両方を必要とする場合、点字の教科書を保証してもらえるように提案していくべきではないか。

・公益財団法人・社会貢献支援財団が毎年募集している、「社会貢献者表彰」に、応募した。9月末に結果が発表される予定。

## 【事務局からのお知らせ】

<会費納入のお願い>

29年度会費を同封の振替用紙にてご納入ください。

よろしくお願いたします。なお、総会のときにお支払いいただいても結構です。

発行日：平成29年3月30日

発行所：NPO法人全国視覚障害児童・生徒用教科書点訳連絡会

ホームページ：<http://kyotenren.web.fc2.com/>

発行人：田中徹二

連絡先：（社福）日本点字図書館 担当：田中・松本

〒169-8586 新宿区高田馬場1-23-4

Tel：(03)3209-0241 Fax：(03)3204-5641

E-mail：[matsumotom@nittento.or.jp](mailto:matsumotom@nittento.or.jp)

振込口座番号：0180-7-262151